

第6次総合計画基本構想の構成（案）

時代潮流や本市の現状などから導出
⇒ 現在、再整理中

将来の都市像：（仮）みんながつながり 輝き続ける うつのみや

<p>策定の趣旨</p> <p>宇都宮市の都市経営の基本として、市民・事業者・行政など、本市を構成する主体が一体となって、総合的で計画的なまちづくりを行うために策定するもので、都市の構成員が共有し、ともにめざす「将来のうつのみや像」を明らかにし、そのために必要なまちづくりの基本方向を定める。</p>	まちづくりの基本方向		
	まちづくりの重点課題	まちづくりの基本目標	2050年の目指すべき状態
	<p>☆ 次代を築く人づくり</p> <p>⇒ 確かな学力や豊かな人間性を育む学校教育や、生涯にわたる学習活動の促進により、本市を支える様々な分野の人材を育成・確保していくとともに、市民が結婚し家庭を築き、子どもを生ま育てたいという希望を叶えられ、子どもが健やかに成長することができる社会の実現が求められる。</p>	<p>結婚・出産・子育ての切れ目のない支援と次世代の「人づくり」が充実した</p> <p>「子育て・教育の未来都市」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市民の結婚や妊娠・出産、子育てに対する希望が叶えられ、すべての子どもが愛され健やかに成長できる社会が実現している。 子どもから大人までの誰もが夢や希望を持ち、その実現に必要な様々な教育を享受できる社会が構築されるとともに、そうした教育の充実により、あらゆる分野において必要な人材が継続的に輩出されている。
	<p>☆ 健康づくりと福祉の充実</p> <p>⇒ 市民一人ひとりが健康づくりに取り組み健康寿命の延伸を図るとともに、高齢者や障がい者など市民の誰もが住み慣れた地域で暮らせる環境の整備を進めていくことが求められる。</p>	<p>健康づくりと医療・福祉の連携により、誰もが生きがいをもち、自立した生活を送れる</p> <p>「健康・福祉の未来都市」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市民一人ひとりとはもとより、地域や事業者などにおいても、健康に対する高い意識が醸成され、社会全体で健康づくりに取り組まれており、誰もが元気で心身ともに豊かで充実した生活を送っている。 生涯を安心して暮らすために必要な保健・医療・介護などのセーフティネットが安定して確保され、生活を支える福祉がきめ細かく行き渡り、高齢者や障がい者をはじめとするあらゆる市民の暮らしが守られている。
	<p>☆ 安全・安心な地域づくり</p> <p>⇒ 身近な地域でのつながりの維持・活性化と官民の連携促進により、日常生活全般の安全・安心の取組や危機への備え、災害発生時に迅速に対応できる環境の整備を進めていくことが求められる。</p>	<p>地域のつながりや支え合いにより、誰もが日常生活の不安なく、安全・安心に暮らせる</p> <p>「安全・安心の未来都市」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の住民が互いの信頼のもと、地域の課題を主体的に解決できるコミュニティと支え合うネットワークが構築されており、市民が住み慣れた地域で安心して暮らしている。 様々な災害に対応できる強靱なインフラとあらゆる危機に迅速かつ着実に対応できる体制が整えられるなど、安全な社会が構築されている。
	<p>☆ 都市の個性づくりの更なる強化と魅力の発信</p> <p>⇒ 都市の魅力さをさらに高め、内外の交流拡大と移住者の増加を図ることで、まちの活気と賑わい、市民の誇りと本市に対する愛着を高め、まちの魅力さをさらに向上させていくことが求められる。</p>	<p>地域資源の魅力創出と発信により、人や情報が行き交い活力が生まれる</p> <p>「魅力創造・交流の未来都市」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 先人から受け継いだ歴史や文化を大切にしながら、「大谷石」をはじめとする本市の様々な地域資源が国内外において認知されるなど、宇都宮ブランドが確固たる地位を築いており、人々の盛んな交流により、市民の郷土への誇りや愛着がさらに高まっている。
	<p>☆ 地域経済を支える産業の活性化と環境調和型社会の構築</p> <p>⇒ 地域産業のさらなる振興により、市民の所得向上や安定した雇用の確保などを実現することで、本市経済の活力の向上を図るとともに、こうした経済活動と併せて、低炭素・循環型社会の推進や温室効果ガスの削減など、環境調和型社会の構築を図っていくことが求められる。</p>	<p>本市の確固たる経済力の維持・発展と環境都市の実現が両立する</p> <p>「産業・環境の未来都市」</p>	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる時代潮流の変化に柔軟に対応できる産業都市が構築されるとともに、市内の各種産業が強みを活かしながら新たな価値を創造し続けている。 市民の誰もが“「もったいない」のこころ”を持って環境負荷の低減を意識して行動し、本市の豊かな自然環境が維持されるとともに、低炭素型・循環型の地域社会が構築されている。
<p>☆ 骨格の強い都市の形成</p> <p>⇒ 長期的な視点に立ち、超高齢社会が進行する中にあっても、市民の誰もが暮らしやすい利便性の高い拠点の形成と、自動車に依存せずに暮らせる公共交通ネットワークの構築が求められる。</p>	<p>魅力ある拠点の創造と骨格の強い交通ネットワークが構築された</p> <p>「交通の未来都市」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本市の顔となる中心市街地においては、高次の商業、業務、文化等の都市機能が集積されているとともに、各地域においても地域の特性を活かした拠点が形成され、市民の快適な暮らしを支える医療、福祉、商業、社会インフラなどの日常生活に必要な機能・サービスが充足している。 市民や来訪者が行きたいところへ自由かつ快適に移動できるなど、日本を代表する総合的な交通ネットワークが完備されている。 	
まちづくりの好循環の創出	⇒ まちづくりの基本方向として示した6つの未来都市（政策分野）が相互に関連し連携・補完し合うことで、それぞれの未来都市が他の未来都市にも好影響を与える、「まちづくりの好循環」を生み出していく。		
目標年次	都市空間の姿	将来のうつのみや像の実現に向けて【各主体の役割】	
2050年	<p>本市のこれまでの成り立ちや、地域の持つ歴史や文化など、それぞれの地域が持つ個性を生かしながら、今後の人口規模・構造の変化に適合した都市の姿である、「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を推進</p>	<p>市民 : 地方自治の主役であるという認識のもと、一人ひとりが互いに助け合い、市政に協力し、公共的活動に積極的に関わりを持つなど、自助・互助・共助の精神に基づいて行動する。</p> <p>事業者: 本市の一員であるという認識のもと、市民の就業と就業時間外の活動との均衡の保持に努め、自らも公共的活動に協力し、積極的な社会貢献活動を通して地域社会との信頼関係や協力関係を深める。</p> <p>団体 : 地域活動団体は、地域内の市民の意見の集約を図り、地域における公共的課題の解決に努める。 非営利活動団体は、自らの公共的活動を行うとともに、他の公共的活動を先導し、及び協力しながらその補完に努める。</p> <p>行政 : 市民の負託を受けた公共の担い手として、多様な主体の意志や活動に基づく自治の実践と自治能力のさらなる向上に努め、市政運営に取り組む。</p>	